

私たちはロドデノール白斑が一部の使用者に発症した原因を探索する目的で研究を進めて来た。

ロドデノール白斑ではロドデノールの代謝産物による細胞毒性が明らかとなってきた。一方で私たちのグループは 細胞の恒常性を保つオートファジー機構が停止するような機能変調をきたした状態ではロドデノールが低濃度でメラノサイトを障害しやすい事 ロドデノール白斑で当初4割に認められた皮膚炎症状に関連して、炎症シグナルが加わることでロドデノールがメラノサイトをアポトーシス状態に誘導する可能性があること 露光部にも高頻度に認められた白斑に関して、ロドデノールが紫外線によるメラノサイトアポトーシスを促進することを見いだした。

また、ロドデノール白斑と尋常性白斑の違いに関して、ロドデノール白斑患者の皮膚病理組織の検討より、ロドデノール白斑患者皮膚では形態学的に尋常性白斑とは異なる所見を見いだした。また、自己抗体の検討からロドデノール白斑では尋常性白斑で認められるような自己抗体が現時点では有意に認められないことを明らかにした。これらは尋常性白斑とロドデノール白斑の発症機構の違いを示唆する所見と考えられた。

一方でロドデノールによるメラノサイト障害による白斑発症にとどまらず、一部患者で難知性白斑や、白斑拡大を認めた。このような状態ではロドデノールによるメラノサイトの障害が尋常性白斑様症状を誘発する可能性も考えられた。

その一つの可能性としてロドデノール白斑患者の一部では皮膚に遊走し易い形質を備えたリンパ球が増えていた。そのようなリンパ球がメラノサイトを攻撃するような機序の可能性も考えられた。

